

利屋町・太田・南中條・北中條・横濱・津幡。是より能登に入るには同郡加茂・能瀬・指江・狩鹿野・宇野氣新・木津・高松を經、羽咋郡川尻・今濱・柳瀬出・羽咋・二宮・瀧・柴垣・狹谷・大島・大念寺新・川尻・安部屋・上野村前・百浦村前・松戸村前・赤住・福浦・牛下村前・生神・領家七海・地頭町・領家町・谷釜里本江垣内・大福寺・鳳至郡劍地・藤濱村前・黒島・道下・館・門前・新保(走出垣内)・廣瀬・本市・谷口村前・別所村前・小又・地藏坊村前・白山川島垣内・大町・鶴島・乙崎・根木・鹿島・會福、鹿島郡横見・田岸・外・代木(中島垣内)・中島・濱田・河崎・奥吉田・中笠師・大津・白濱・田鶴濱・直津村前・小島・所口・松百村前・石崎・奥原・舟尾・川尻村前・田鶴濱・高田村前・杉森村前・下村前・瀧仁・町屋・三階・大槻村前・羽坂・末坂・深澤(一青垣内)・良川・西馬場・上・徳丸・能登部下・杉谷・金丸・金丸出・横濱(四柳垣内)・酒井、羽咋郡寺境(本江垣内)・若部(同上)・本江・飯山・小瀬(白瀬垣内)・中川・杉野屋・菅原・子浦・散田村前・下石村前・深谷(所司原垣内)を過ぎて越中射水郡氷見に出た。

次(の如くであらう。
慶長七年十一月廿六日安藤正次金澤着。
寛永十一年十一月徳山五兵衛・桑山左衛門・林丹波金澤着。
萬治二年正月内藤新五郎・長谷川彌左衛門金澤着。
萬治三年四月渡邊筑後・野瀬次左衛門金澤着。
寛文七年七月八日甲斐庄喜右衛門・鳥井權之助・神保四郎右衛門金澤着。
天和二年六月大關助右衛門・中根左兵衛・内藤十之丞金澤着。
寶永七年六月廿一日島田藤十郎・高井作右衛門・寛助兵衛金澤着。
享保二年四月廿五日鳥井權之助・小菅伊右衛門・天野傳兵衛金澤着。
延享三年四月廿三日大久保堅兵衛・山岡五郎作・筑紫宇兵衛金澤着。
寶曆五年四月廿一日松平頼母・大河内善兵衛金澤着。
寶曆十一年四月依田金十郎・前田半十郎・松浦猪右衛門金澤着。
寛政元年四月十七日筑紫十太郎・大久保長十郎・堀八郎右衛門金澤着。
天保九年閏四月十一日石尾織部・寛新太郎・木下内記金澤着。

シムケンジヨウシ 巡見上使 幕府は諸侯の政績視察の爲、隨時使者を派遣することあり、特に將軍代替の後に於いてこの事があつた。之を巡見上使とも廻國上使とも御國目付ともいひ、豫めその事を通報せられた。加賀藩ではその際御算用場内に別役所を設け、改作奉行二人、御馬廻頭・御小將頭各一人を主任とし、御郡奉行及び御扶持人十村、平十村數人を参加せしめて迎接の準備をなされしめ、上使領内を巡る時は改作奉行之に隨行した。今巡見の行はれたものを列擧すると略

院梅溪妙容大禪定尼。
ジュンサイ 順西 珠洲郡慶西寺の祖。天正五年上杉謙信が能登を平定し、諸將を各地に置いて之を守らしめた時、貢租算數に詳しきものを求めて順西を得、之をして事に當らしめたといふが、その傳を詳かにせぬ。
シムンサク 春策 ↓コシツシムンサク 虎室春策。
シムンザンイン 春山院 加賀藩主第十三代前田齊泰の側室加須屋氏の法號。
ジュンシ 殉死 加賀藩に於いて殉死を行つたものは、前田光高の卒後淺井源右衛門一政・小篠善四郎があり、利常の喪後竹田市三郎忠種・古市左近胤重・品川左門雅直・堀作兵衛善勝があつた。然るに幕府は寛文三年五月廿四日諸侯を集めて殉死を禁じたので、爾後之を見ぬ。又大聖寺藩に於いては前田利治の卒後、小澤三郎兵衛・小栗權三郎・中澤久兵衛・松江三郎兵衛が殉死した。
シムンジチヨウ 春事帖 一册。金澤の俳人眉山(初代)の春帖である。文化十年京橋榮堂善助板。
シムンシユウ 俊嘯 ↓コガンシムンシユウ 虎巖俊嘯。
シムンシヨウ 春昌 ↓シユウザンシムンシヨウ 州山春昌。
シムンシヨウイン 春宵院 大聖寺藩主第四代前田利章の女富姫の法號。詳しくは春宵院禪月良照童女。
ジュンシヨウイン 順正院 加賀藩主第十代前田重教の女で、高松侯徳川頼篋夫人になつた藤姫の法號。詳しくは順正院深譽妙智恵照大姉。

シムンシヨウウジ 舜昌寺 金澤六斗林玉龍寺九代廣岩が明曆二年建立した所で、玉龍寺の塔頭であつたが、寶曆九年四月十日申上刻この寺より出火し、未曾有の大火となつた。この時寺は斷絶したが、後に玉龍寺の隱居所たる小庵が建てられてゐた。
シムンシンヒサク 凌新秘策 十三卷。凌新青地禮幹の著。新井白石・室直清を初め、青地齊賢・小谷繼成・小瀬良正・大地昌言・山本基厩等の書翰を主として編したもの。この書によつて、享保七年から元文五年に亙る藩政の事情が能く判り、殊に著者は大槻朝元排斥の急先鋒であつたから、その密事を摘發したものに多くの價値を認められる。本書の外題を凌新秘策附録と題したもの、あるのは、兼山秘策の附録がこの凌新秘策であるとの意かと思はれる。
ジュンセイ 順誓 金澤眞宗西派照圓寺の開祖。法敬坊と稱した。その事蹟に就いては、御一代聞書・實悟記・空善聞書・山科連署記等に記されてゐる。寺傳にいふ。順誓は應永十一年正月元日石川郡山島郷島田村に生まれ、俗名源權之頭。寶徳中蓮如行化の時雍髮し、名を順誓と賜うた。享徳中蓮如は宗祖と連座の影像を興へたが、その裏書に『順誓が法を敬ふ身になればその名をかへて法敬といふ』とある。明應七年戊午十二月十五日附蓮如の順誓・空善二人に宛てた消息は、帖外御文に載せられてゐるが、照圓寺では願行具足御遺訓の御書と稱して之を傳へてゐる。永正三年七月十五日能美郡波佐谷に往生、行年百三歳。今専光寺に法敬坊署名の往生禮讚偈一帖を藏する。

シムンコウイン 春光院 加賀藩祖前田利家の弟右近秀繼の法號。詳しくは春光院密庵永傳居士。
シムンコウイン 春香院 加賀藩祖前田利家の女千世姫の法號。詳しくは春香院梅室昌齋大姉。
シムンコウイン 峻光院 大聖寺藩主第八代前田利考夫人溝口氏の法號。詳しくは峻光